

(様式 2)

## 大阪市立十三中学校 平成 28 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <p>○平成 28 年度チャレンジテストにおける平均正答率を府レベル以上にする。(カリキュラム改革関連) ≪ 3 年 C <u>1・2 年結果待ち</u> ≫</p> <p>○中学校 3 年生での英検 3・4 級程度の英語力を有する生徒の割合を 65%にする。 [現中 2 43%] (カリキュラム改革・グローバル化改革関連) ≪ <u>A92.4%</u> ≫</p> <p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <p>○学校で認知したいじめについては、解消に向けて組織的に対応している割合を 100%で維持する。(マネジメント改革・学校サポート改革関連) ≪ B ≫</p> <p>○学力調査における、「学校の規則を守っていますか」の項目における肯定的な回答の割合を前年度以上にする。[27 年度 94.6%] (マネジメント改革関連) ≪ <u>A98.8%</u> ≫</p> <p>【視点 健康・体力の保持増進】</p> <p>○学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。[27 年度 「寝る」72.0% 「起きる」93.1%] (カリキュラム改革関連) ≪ <u>A「寝る」76.2% 「起きる」95.4%</u> ≫</p> <p>○年度末生徒アンケートにおける、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。(カリキュラム改革関連) ≪ <u>B「寝る」12%増 「起きる」1%減</u> ≫</p> <p>【視点 学校に対する関心の高まり】</p> <p>○学校ホームページの閲覧数を前年度以上にする。[27 年度 2 月末 23,515 件] (マネジメント改革関連) ≪ <u>A2 月 18 日現在 23,843 件</u> ≫</p> <p>○学校協議会の傍聴人数を 20 人以上にする。(マネジメント改革関連) ≪ <u>C第 2 回 2 人</u> ≫</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>○15 分朝読書の実施</p> <p>○小学校と連携した図書の貸し出し事業の実施</p>	A

○図書室開館と自主学習センター機能の充実 ○「読み聞かせ」の実施（元気アップ事業と連携） （カリキュラム改革関連）	
指標 学力調査において「１日に 30 分以上読書をする」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。〔27 年度 19.1% 〕《23.8%》	
取組内容②【区分 自主学習習慣の確立】 ○エブリデイ・ホームワークの実施 ○放課後に自主学習会を実施（定期考査前に基礎と発展） ○家庭学習の調査と各家庭における意識づけの啓発 （カリキュラム改革関連）	A
指標 宿題の提出率を前年度以上にする〔27 年度 83.5%〕《2 学期末 90.4%》 また、学力調査において「平日、授業以外に 1 時間以上勉強する」と回答する生徒の割合を前年度以上にする。〔27 年度 56.8% 〕《61.4%》	
取組内容③【区分 基礎・基本の定着】 ○朝学習やその内容から作成した小テストの実施 ○タブレットやプロジェクターなどの I C T を活用した授業の実施 （カリキュラム改革関連）	A
指標 I C T を活用した授業を、年間のべ 50 時間以上実施する。《12 月末約 200 h 》	
取組内容④【区分 教員の指導力の充実】 ○全教員の研究授業の実施 ○教員個々の授業力向上研修の実施 （マネジメント改革関連）	C
指標 授業アンケートにおける学校平均を前年度以上にする。〔27 年度 3.28 〕 《3.27》	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組については概ね計画通り進めることができた。その結果、生活習慣の安定が見られるようになり、ひいては読書時間や学習時間など、生徒の学習意欲は着実に向上しつつある。これらが数値としての学力に反映されるまでには今しばらくかかりそうではあるが、次年度も引き続き見通しを持って取り組んでいく。 一方で、一面的ではあるが、生徒による教員の授業力評価は停滞気味となっている。学年単位の研究授業を実施し、総合的な授業力の向上に努めてきた。	

次年度への改善点
組織的な教職員研修はほぼ終了した。年度が変わればまた新たな教職員を迎えることとなるが、新しい風を入れながらさらに指導力の強化に努める。例年通り、今学期は1・2年生チャレンジテストが既に実施され、結果待ちの状態であるが、新年度4月にはまた、3年生の全国学力調査が実施される。生徒の学力向上とそれを支える教職員の指導力向上にさらに尽力するとともに、次年度を見据えた授業計画の再構築を行う。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 いじめへの対応】 面談や家庭訪問、その他、教員が生徒と触れ合う時間を確保し、いじめの早期発見、早期対応を行う。 (マネジメント改革・ガバナンス改革関連)		B
指標 いじめの発生件数を3件以下に抑える。《現在3件》		
取組内容②【区分 問題行動への対応】 保護者・地域とのコミュニケーションの機会を充実させるとともに、物事に感動したり、他者を思いやることの大切さを実感する場面を創出する。（ガバナンス改革関連）		A
指標 学校管理下における生徒と保護者・地域ボランティアとの直接交流の場を、のべ50回確保する。《57回》		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
概ね計画通り進めることができた。特に今年度、正門前の校舎壁面に「いっしょうけん命はかっこいい」のスローガンを横断幕として掲げ、何事にも精一杯取り組む姿勢の大切さを前面に出して指導を行ってきた。その結果、さまざまな行事で関係者の方々から賞賛をいただけるようになってきた。またその他の取組にも派生的に成果が見られ、いじめについては早期発見・早期対応に努め、少数の発生件数にとどめている。一方、学校生活のあらゆる場面で、保護者の協力を求めるとともに、地域ボランティアの獲得に取り組み、読み聞かせや自主学習の援助、園芸活動など、子どもの学習意欲の向上や心の安定に努めている。		
次年度への改善点		
全体的には年々良い方向へ向かっているが、さらに高い目標に向け改善を図る。ただ、家庭環境など、学校だけの取組では解決できない課題も多く、次年度も引き続いて関係機関と連携し、子どもにとって学習しやすい、生活しやすい環境を整えられるよう取り組むことによって、円滑に新年度をスタートさせ、軌道に乗せるよう努める。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【区分 体力向上への支援】 部活動への参加を促し、日常的な運動の機会を増加させることにより、基礎的な体力や運動能力の向上をめざす。 (カリキュラム改革関連)		A
指標 体力調査における体力合計点を前年度以上にする。〔27 年度 男子 40.36 女子 45.54 〕《男子 41.15 女子 46.03》		
取組内容②【区分 健康な生活習慣の確立】 区役所の「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）」とも連携を図りながら、遅刻を減らすよう日常的な生徒指導を継続して基本的な生活習慣の確立をめざし、結果的に朝食の摂食率も高める。(カリキュラム改革関連)		C
指標 遅刻の年間総数を前年度以下に抑えるよう指導を行う。〔27 年度 2 月末 1,531 日〕 《2 月 10 日現在 1,596 日》		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
取組は概ね計画通り進行している。体力調査などの結果も徐々に向上してきており、一応目標を達成できた。生活習慣に関しては、区役所の施策を活用するなどの連携にも力を入れつつ取り組んできたが、遅刻については、すでに昨年度の数を超えてしまっており、目標を達成できなかった。まだまだ寒冷的な季節が続くこともあり、さらに数が増えることが予想されるが、1 件でも少なく抑えるため、子どもへの直接的な指導とともに保護者への啓発を実施する。		
次年度への改善点		
ヨドネルの取組が加速しており、本校においてもより高い目標に向けた取組を模索する。ただし、これらの取組は家庭の協力が不可欠ながら、今後の改善を期待する家庭も少なくない。こども相談センターや子育て支援担当とも連携を図りながら家庭の教育力の向上に可能な限り取り組む。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【区分 保護者・地域による学校理解】</p> <p>P T A の会合や保護者集会、あるいは各地域との協議会において学校に関する広報活動を行う。(ガバナンス改革関連)</p>	A

<p>指標</p> <p>保護者アンケートにおいて「学校ホームページをみたことがある」と回答する割合を 70%以上にする。《<u>75%</u>》</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>学校ホームページはきめ細かく更新するとともに、極力子どもたちの活動を画像として掲載するよう努めており、結果的に閲覧数も目標を達成することができた。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>学校の活動や現状を広く広報するための新たな方策を模索し、開かれた学校づくりを進めていく。次年度は本校創立 70 周年を迎えることもあり、これを機に広報活動を活性化させる。</p>	